

H29.7.27 東淀川区区政会議 第2回 防犯・防災部会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成29年7月27日(木)午後7時から午後8時 東淀川区役所4階401会議室

出席者 防犯・防災部会委員9名

議題1 (仮称) 東淀川区将来ビジョン～2022年に向けて～(素案)について

(防災について)

- 災害時はどこも一緒になる。地域単位(小学校区)でなく、中学単位や大学エリアなど地域間の大きなエリアで考え、交流していく方向で考えていただきたい。
- 避難所が少ない地域・多い地域がある。近隣地域で連携・協力して、もしもの時は助け合えたらいい。
- 「災害時に要配慮者に支援が届くように平時から地域の人とつながりをつくる」としているが、平常時に見ているといざとなると我々が何とかしないといけないということが地域においてプレッシャーになっている。具体的にどのような形ですのかまとめてほしい。

(防犯について)

- 防犯も地域だけでなく大きなエリアで一緒に展開していくべき。青パトで回るときによその地域も回ると抑止効果が高まる。各地域で回ってほしいルートを教えあってはどうか。
- 特殊詐欺の電話があったときに相談する場がないのが大きな問題ではないか。文言として必要では。

- ・特殊詐欺の相談窓口としては、専用の窓口はないが、警察・区役所・市の消費者センターに連絡を入れていただくことになる。整理したものを情報提供することも考える。

議題2 平成30年度取り組みの方向性について

(人材・他団体との連携強化について)

- 人材の問題。団体・企業・学校等との協力・連携関係づくり。お互いのよいところを合わせて事業に応じた形で他団体との連携強化していくことが防災でも防犯でも必要。
- 若い方の人材不足というが、いざという時に仕事に行き地域にいない人よりも、地域にいる元気なお年寄りを有効活用し手伝ってもらえる手もあるのでは。

(周知啓発について)

- 特殊詐欺や女性犯罪に関する周知啓発
- 市の消費者センターの悪徳商法の出張講座などの活用方法を考えもっと活用しては。
- 高齢者が集まるようなところで特殊詐欺に関する映像放映や講習会をするといい。

(青パトについて)

- 青パトでほかの地域も回ると抑止効果。
- 青パトの高齢化が進み免許を返上しないといけない状況。違う地域を回ると地活協予算をどう処理するかという問題もあり、全域で走るのは難しいのでは。
- 青パトに入れているSDカードの音声の種類があまりにも少ない。夏休みバージョンなど種類を増やし臨機応変にならないか。
- 青パトの音声長い文章では車で回っている中で伝わりにくい。一瞬のインパクトのある内容の方がいい。「青パトが回っています」というだけで防犯アピールになるのでは。

(自転車マナーについて)

- 自転車マナーの啓発も青パトで啓発してはどうか。
- 自転車マナーは地域地域でどこを通るべきか違い、何が正しいかルールがわからない。講習会などもっと周知してほしい。
- 自転車走行のマップを作って子どもたちや家庭に周知してはどうか。

- 警察に確認するが、青パトでの交通マナー啓発は可能性ある。検討していきたい。

H29. 8. 10 東淀川区区政会議 第2回 防犯・防災部会学習会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成29年8月10日(木)午後7時から午後8時 東淀川区役所4階401会議室

出席者 防犯・防災部会委員7名 他部会委員2名

議題1 (仮称) 東淀川区将来ビジョン~2022年に向けて~(素案・修正案)について

- ・区政会議意見反映…地域だけでなくエリアで考えては→「地域間連携」。「特殊詐欺」追加。

(将来ビジョン「防犯意識の高いまち」について)

- 企業も含めるべき。めざす状態に「警察や行政・地域企業と連携して」追加してほしい。
- 「地域間連携」の記載をしていただいたのでそれでよい。

議題2 平成30年度取り組みの方向性について

- ・防犯は子ども・女性対象犯罪が増える中で地域・企業との連携を進める。ハード面の防犯カメラ設置、ソフト面の啓発活動、両面進める。自転車の交通安全の取り組みも。
- ・防災は、子育て層等若い世代へアプローチする自助・共助の取り組みと行政の公助の検証。先日初めて医師会や福祉避難所等外部と連携した訓練を実施。引き続き取り組みたい。(警察)青パトのスピーカー利用は防犯情報が基本だが、防犯を基本のうえで臨機応変に自転車などの注意喚起することは一定可能。広報するなら街宣活動許可が必要。

(防災について)

- 町会の防災関係者以外に、商店・学校・企業など地域間というエリアの連携がやはり大事。切り口を変えてつながりをつくっていく。
- 企業・法人などの連携には、まず説明会・連絡会をすところから関係を。
- 人材は若い人材だけでなく元気な高齢者の組織化が必要。そういう方が地域に参加しているかというところでもない。どう地域に取り込んでいくか。
- 若い人が集まる学校で、授業の一環で防災を考えることも重要。
- 自助の部分、備蓄や家具固定について、危機意識はあるがどうすればいいかわからない。具体的に見せることが必要。学習会などで知識を増やしてもらうこと。

- ・訓練に関して、エリアで地域連携できるような開催を区役所が働きかけることは可能。
- ・防災マップに情報を入れ込むこともできる。備蓄が必要ということや意識啓発。

(防犯について)

《特殊詐欺》

○「子供や孫に相談して思いとどまった」話をよく聞く。相談相手をつくるのが大切では。相談窓口をわかりやすく周知できないか。多すぎても迷う。集約・単純化（例：#9110）し、電話の横に貼るステッカーをつくるなど。

○新しい手法がどんどん出る。新しいものが出るたびに周知できないか。いちごっこでも情報があるかないとでは違うのでは。もっと伝えてほしい。

《女性に対する犯罪》

○再犯も多い。男性側にこういう犯罪をすると人生台無しになるという啓発も大事。

○暗いところを少なくしていくといい。一軒一灯運動をしている区も。

○一方、門灯の取組みを勿体ないと感じる人や防犯灯増設も明るすぎて嫌という人もいる。

○夜遅くに公園で話している女子中学生がいたりする。家庭教育の問題もあるのでは。

《自転車》

○そもそも自転車の道路上のルールがあいまいな部分ある。信号もバラバラ。「歩行者・自演者専用」信号より、自転車は車と同じ扱いがいいのでは。

○ドライバーの意識だけでは限界がある。「止まれ」の前の道を凸凹にして止まらざるを得なくするなどのハード整備が必要。

○若いお母さんが慌てているのをよく見る。保育所や幼稚園で自転車マナー啓発しては。

○高齢者もそう。交通安全教室を老人会に対しても行ってほしい。全体的に周知啓発必要。

(警察より)

- ・ #9110 は府警本部にかかるためあまり推奨しない。警察がマークしている特定番号から電話がかかると赤ランプがつく電話機を様々な事業者が製品化しており普及してほしい。
- ・ 安まちメールは効果あると考えるが興味ある人しか登録してもらえていないのが課題。
- ・ 生野区などでは門灯をつける運動。暗いよりは明るいほうがいい。性犯罪はカメラの影響で減ってはきている。

H29.9.7 東淀川区区政会議 第3回 防犯・防災部会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成29年9月7日(木)午後7時から午後9時 東淀川区役所4階401会議室

出席者 防犯・防災部会委員9名

議題1 東淀川区将来ビジョン～2022年に向けて～(案)について

(防犯での連携について)

○「めざす状態」だけでなく「施策展開の方向性」の部分にも、「地域や警察、企業等」と「企業等」を追加しては。

- ・追加を検討する

議題2 平成30年度東淀川区運営方針(原案)について

(防災訓練について)

○避難所開設訓練を実施したが、非常に多くの課題があった。細部にわたった訓練が必要。

「防災学習や防災訓練(避難所開設訓練)」と「開設訓練」についても明記しては。

○地域だけでなく小学校との合同訓練として土曜授業で実施すれば、保護者の方も含めかなりの人数の訓練になる。運動場や講堂もいっぱいになるくらい、これだけたくさんの避難者が来るということもわかるし、たくさんの方の防災意識の向上ができる。

○避難所に行くまでの訓練も必要。うちの地域では、大雨を想定してプールの水を太ももくらいの深さにし皆で着衣で歩く訓練をした。ガタガタな道を歩くなどの訓練も大事。

○井高野小学校の校舎が工事中で避難場所が減っている。連携している他の地域にも情報がくるようにするには、地域が主体性をもってするのか、区役所とやりとりするのか。

- ・訓練を実施することで、その都度課題が見えてくる。避難所開設訓練について、運営方針に記載していきたい。
- ・夜間の避難訓練や避難経路を地域の方々に確認する訓練など、様々な訓練をしていただいている。避難所運営も発災時の避難所開設と時間の経過に応じた運営をどうしていくのか、平日なのか休日なのかなど、様々なパターンでのシミュレーションについて相談しながら、命を守る行動がとれる訓練の支援をしていきたい。
- ・体育館を工事していないので影響はない。また避難訓練を主にしてきた井高野小学校だけでなく井高野中学校も避難所になっている。地域間で調整いただければと思うが必要であれば区役所も調整に入らせていただく。

(北朝鮮情勢に伴う対応について)

○北朝鮮のミサイルについても、防災として考えるのか。

- ・丈夫な建物に逃げる。他都市では避難訓練も。大阪市も「危機事態対策本部」を立ち上げる。情報収集も含めて危機意識を持っていただきたい。

(議員より) 防災と違う点は、何の兵器が撃ち込まれているかわからないため、避難所に行こうと外に出ることで害が加わることがある。確認するまでは外に出ないということ。

(防災装備品具について)

- 防災リーダーが目立つようなヘルメットなどを備蓄に入れられないか。前は赤十字から服も安全靴も支給されていた。
- 防災具は地域活動協議会を通じて申請すれば通る。ただ補助金なので全額ではない。地域の努力も必要。足りないところは行政の力添えを検討いただきたい。補助金になることについて知らない地活協もある。区役所から地活協に情報を伝えてほしい。

- ・必要な備品等については地域で準備いただいている。
- ・補助金の担当に支給要件を確認し、担当と連携しながら情報共有していきたい。自助・共助の部分もあるが、命に関わることであり、予算の優先順位をつけながら執行いただきたい。

(福祉・医療分野との連携について)

- 区役所と医師会や薬剤師さんの連携は何かされているのか。教えていただけたら。
- 上から連絡が来てお医者さんが動いてくれたらいいが、災害時どうなるかわからない。うちの地域では防災リーダーとしてお医者さんに入ってもらっている。防災訓練で救護施設を開設していただいた。防災リーダーとして関心を高めてくれる。増やしていきたい。

- ・大阪市は医師会と協定書を締結しており既に基本的な形は整っている。東淀川区では7月に職員・地域・医師会・福祉施設等で初めての総合訓練を実施した。課題も見えてきている。実際どう動けるかということが大事。体制整備を進めていく。

(防犯について)

- 地域、警察、企業等が一丸となり一緒に参加できるような防犯活動やイベントを年1回でも行ってはどうか。
- 女性に対する犯罪や特殊詐欺が多い。更に講習やステッカー・広告物等での周知の強化を。

- ・企業等との連携で、防犯意識向上や犯罪抑止につながるような取組みができればと考えている。

(交通マナーについて)

- 児童への交通マナー周知はしているが、保護者に勉強会を検討しては。親をみて覚える。「マナー勉強会・安全教室(児童・保護者・高齢者等)」といった形で表記できないか。
- 各小学校で毎年自転車安全教室はしているが、範囲を広げて地域にも声をかけてもらい一緒にできればいいのでは。
- 平成28年の府の自転車条例で自転車保険の加入義務化があったが、今はどうか。交通安全の周知の際に、相手にけがをさせた際の負担のことや保険加入の周知啓発をしては。
- 先日確認した青パトで自転車マナーの周知もできるということを周知いただきたい。

- ・対象者の表現について検討してまいりたい。
- ・地域への小学校の安全教室周知には学校・地域・警察と調整必要。可能な範囲でできれば。
- ・条例施行当初は保険加入の周知に力を入れていたが、改めて講習会等の機会に周知したい。(議員より) 自転車が安全に走行できる道路など環境整備の取り組みも必要。自転車保険はあさひやコーナンと提携、自転車購入の際に保険加入の案内をしていただいている。府立高校では保険加入の確認をしてから自転車通学を認める活動もしている。